

計画の実現に向けて

この計画では、子どもの読書活動の推進状況を概観できる指標を使って、以下のとおり数値目標を設定します。
この計画を推進するために関係機関や関係団体等による「東近江市子ども読書活動推進委員会」を設置します。

●東近江市子ども読書推進計画における指標

指 標 名	計画策定時実績				目 標 (R9年度)	
	第1次 (H19年度)	第2次 (H24年度)	第3次 (H29年度)	第4次 (R3年度)		
学校図書館図書標準(学校図書館に整備すべき蔵書の標準)に達している学校の数	小学校	—	5/22校	15/22校	20/22校	全校
	中学校	—	1/9校	6/9校	9/9校	全校
学校司書を定期的に配置している学校の数	小学校	0/23校	12/22校	22/22校	22/22校	全校
	中学校	0/9校	2/9校	5/9校	9/9校	全校
全校で定期的な読書活動を実施している学校の数	小学校	14/23校	22/22校	22/22校	19/22校	全校
	中学校	5/9校	9/9校	8/9校	9/9校	全校
読書活動においてボランティアと協力している学校、園の数	認定こども園 保育所 幼稚園	18/40園 (45%)	34/40園 (85%)	20/31園 (65%)	15/27園 (56%)	全園
	小学校	21/23校	19/22校	22/22校	18/22校	全校
	中学校	2/9校	2/9校	3/9校	2/9校	全校
市立図書館と連携を実施している学校、園の数	認定こども園 保育所 幼稚園	31/40園 (78%)	40/40園 (100%)	31/31園 (100%)	27/27園 (100%)	全園
	小学校	20/23校	22/22校	22/22校	22/22校	全校
	中学校	5/9校	5/9校	7/9校	3/9校	全校
1箇月間に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合	小学校	—	96.9%	97.9%	97%	100%
	中学校	—	89.9%	89%	88%	95%
1箇月間の児童、生徒の読書冊数	小学校	—	—	7.9冊	8.5冊	10冊
	中学校	—	—	2.7冊	3.2冊	5冊
市立図書館での児童図書の年間貸出冊数(12歳以下の子ども一人当たり)		23冊	27冊	26冊	26冊	30冊
市立図書館での児童図書の蔵書冊数(12歳以下の子ども一人当たり)		15冊	17冊	20冊	20冊	20冊

東近江市子ども読書活動推進計画 第4次計画

令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)

概要版



人と人、人と自然との豊かな出会いと読書で生きる力を育む
～ いつも手元に読みかけの本を ～



I 子どもと本をつなぐ園、学校

1 園の子どもと絵本をつなぐ活動と環境整備

●子どもの笑顔と豊かな心を引き出す絵本と保育

子どもが絵本や図鑑を手に取りやすいよう各園の絵本室や絵本コーナーの環境を工夫するとともに、適切に選書、廃棄、更新などを行い、魅力のある蔵書の充実を図ります。

●絵本でつながる人がいっぱい園

各園では、保護者や地域のサークルやボランティア、市立図書館などと連携し、読み語りの機会を重ね、人的な読書環境の充実を図ります。



2 小・中学校の子どもと本をつなぐ活動と環境整備

●豊かな心と学びを広げる読書活動

学校生活において、子どもが日常的に本を読むように、朝読書や読書タイムを週単位のスケジュールに位置付けること、読み語りや読書集会、読書啓発活動などを年間計画に位置付けることを継続し、更なる充実を目指します。

●魅力のある蔵書

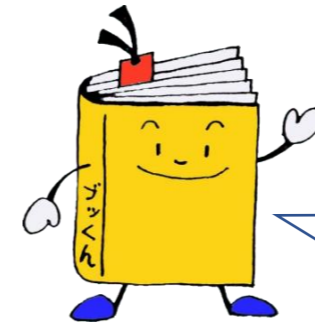
子どもの多様な要求に応え、豊かな心を育み、学びが広がるような魅力のある蔵書を備え、その充実に努めます。

●本の専門家がいる学校図書館

本に関する専門性をもつ司書教諭や学校司書が学校における子どもの読書活動の推進や学校図書館の運営に大きな役割を担っており、今後も計画的な体制の充実を図ります。

●本でつながる人がいっぱいの学校 ～開かれた学校図書館～

読み語りや読書集会などの読書活動、団体貸出、館内装飾、環境整備などの運営について、協働、連携を進めます。



本計画を推進するに当たり、キャッチフレーズとして掲げている“いつも手元に読みかけの本を”を明示した掲示物やキャラクター「ブックくん」を各種印刷物やしおりのデザインに取り入れることで、様々な人の目に触れるようにし、読書に親しむための一助としています。

II 子どもと本をつなぐ家庭、市立図書館、地域

1 いつも手元に読みかけの本がある家庭

近年、スマートフォンやパソコンを利用して様々な情報を簡単に入手できるようになり、読書離れが懸念されています。こうした中、市立図書館や園、学校、子育ての関連施設は、家庭に向けて、子どもの成長過程における読み語りや読書の重要性を様々な機会でお伝えします。



2 子どもの居場所としての市立図書館

●楽しい本の森づくり ～豊かな資料群の整備～

子どもが読みたい、知りたいという気持ちを高め、自主的に本を読むことができるよう、蔵書やサービス体制を引き続き充実させます。

●司書の専門性

子どもと本の架け橋になるよう「子どもを理解すること」「本を知ること」「子どもと本を結びつける技術」を身に付けるなど、司書の専門性を高めます。

●子どもの夢づくり

絵本や図鑑等の様々な本を楽しむきっかけを作るために、おはなし会や資料展示、ブックトーク、講演会等の事業を更に充実して展開します。

●園、学校と共にある市立図書館

各園や各学校の職員と直に顔を合わせて連携を密にしながら、子どもの読書環境充実につながる支援や団体貸出を行い、子どもたちが常に本と親しむことのできる読書環境づくりを進めます。

●子どもと本をつなぐボランティア支援

ボランティアグループ同士の交流や連携により、子どもの読書をサポートするボランティア活動が市内全域で展開することを支援します。

3 子どもと本をつなぐ地域

●子どもが集まる場に本があるまち

子育て支援センターや保健センターの他、地域には、学童保育所、児童館、コミュニティセンター等、子どもが集まる場所や子どもを対象とした活動があります。子どもが集まる場の特性に応じて子ども読書活動を推進できるよう本計画を周知し、協力、協働、連携を求めます。

